

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第36回「PSIレベル69」

【PSIとは何か】

シンガポール空港に到着すると、天候は曇。今にも大粒の雨が降りそうな気配である。しかし雨は一向に降らない。灰色の空は曇ではなく煙だったのだ。原因は山林火災。

空港からホテルに直行して、まずテレビの画面を確認する。この煙害は深刻なようで、どんな番組の放映中でも画面の左上に「PSI 69」という表示が出る。この数値はウェブのページ (<http://www.gov.sg/env/sprd/haze.html>)でも確認できた。

このPSIとはPollutant Standard Indexの略である。数値の解釈は次のようになる。以下の説明は筆者による簡約版であるから、現地に赴く人はぜひ正確な情報を入手していただきたい。

0 ~ 49 (Good)	特に注意する必要なし
50 ~ 99 (Moderate)	同上
100 ~ 199 (Unhealthy)	敏感な人は皮膚、目、鼻などに感じる。通常の活動が可能
200 ~ 299 (Very Unhealthy)	健康な人は活動できるが、病人は屋内に留まるべし
300 ~ 399 (Hazardous)	健康な人はまだ活動できるが、屋外は避けるべし
400以上 (Very Hazardous)	全員屋内に留まるべし、戸や窓を開めること

ホテルで受信できるシンガポールの4つのテレビのチャンネルは、いずれもPSIの数値を表示していた。69、71、73、72、75と変化する。外出して夕方戻ると、108、106、104と昼間よりも数値が高い。そういえば屋外で目に煙を少し感じたような気がする。私は敏感なのか。

今回のシンガポールの煙害は、人災というべきか、エルニーニョが遠因とすれば天災なのか、見方がいろいろあるようだ。いずれにしても現地の様子はひどい。植物も元気がないようだ。

【準備と慣れ】

PSIの数値をテレビで一斉に表示するというのは、シンガポールの人は準備がよいというべきだろう。実は4年前にも同様の煙騒ぎがあったという。その時は雨が降っておさまったが、今回はなかなか雨が降らなくて長引いている由。

それでも一時期よりも数値が下がってきたので、現地の人には落ち着いている。私はPSIという用語自体が初耳でもあり、何となく興奮している。マレーシアのクアラルンプールではPSIが何百という値になるという話も聞いた。そりゃHazardous(危険域)ですね。

昼と夜でPSIが変動する原因は、1つには風向で煙が動くこと。また人間の活動にともなって排出される煤、埃、亜硫酸ガ

ス、一酸化炭素、二酸化窒素、さらに地表のオゾンも測定対象に含まれるので、時間帯によって変化するのが当然だという話も聞いた。

たまたまマレーシアのペナンに住んでいる友人が、同じ会議に出席するためにシンガポールに出張してきていた。ペナンはひどいだろうと同情したところ、数日前に大雨が降って助かったという話である。シンガポールでも雨が降ればよいのだ。あら、いま雷鳴が聞こえましたよ。それでも雨は一向に降らない。

【中国語は普通話】

今回は煙害のPSIを調べていて、私の趣味である言語の探求が後回しになってしまった。シンガポールは言語事情が錯綜している。英語、中国語、マレー語、タミル語の4か国語が使われているからだ。紙幣も貨幣も4か国語で表示してある。Singaporeは英語表示であり、中国語では新加坡、マレー語ではSingapuraとなる。タミル語は私の修業が不足しており書けない。残念。

シンガポールでは英語が街中で良く通じる。これが香港と比べて観光が楽な理由である。もちろん中国語ができれば、それに越したことはない。中国語は発音が難しいけれども、日本人は漢字が読める。これは大いなる利点だ。意味の概略が分かるのは嬉しい。ほら、あそこの看板に「星期二」と書いてあるのは火曜日のことだ。その隣は駐車禁止の意味だね。

シンガポールの中国語で特徴的なのは、簡略字(簡字体)の字体が使われていること。これは香港や台湾の繁体とは異なる。つまり北京式である。このあたりにシンガポールの政策を感じる。なお標準の中国語のことを英語では「Mandarin」というが、これは北京官話という意味。中国語自身では標準という意味で「普通話(プートンホア)」と呼ぶ。

今回は中国語の探求もそこそこに、煙から逃れるように帰路に就いた。チャンギ空港へ急ぐタクシーの窓に雨粒がポツポツ。なーんだ。私が帰った途端に煙も晴れるのか。

そう思って帰国した翌日にウェブのページで確認すると、PSIは157に跳ね上がった。まだまだおさまらない煙害であった。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp